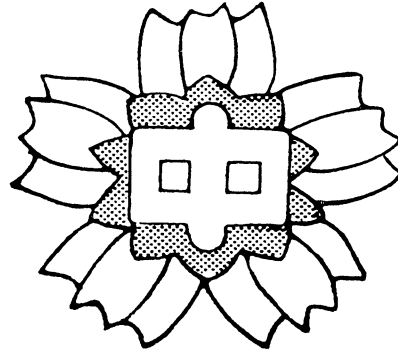
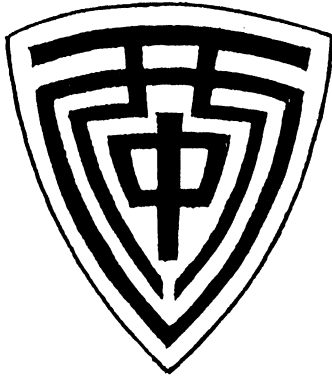


校章の変遷



左は、昭和22年4月22日創校当時の校章である。校章の三角形の形は、盾を形どり、物事の表裏を表し、勝利を意味し、学力の向上を図るため、根気強さ、すなわちたくましい精神力、体力を身につけるように願ったもの、また協力とか和という内容的な面からも考えられた。西部中学校の西という文字については、古代模様公益紋張大全の中から引用し、盾の外形に合わせて、西の文字を、また、真ん中には中学校の中の文字を位置づかせ、西部中学校の発展と立派な中学生に育っていくことを望んだものである。

右は、昭和24年9月16日、新校舎の落成とともに新たに制定されたもので現在も用いられているものである。外輪は五弁の桜花のように見えるが、実は五つの蕾を組み合わせたもので、これは、本校の生徒が、三年間の中学校生活を土台にして、これから先、無限の可能性を切り拓き、やがて豊かな人間性あふれる人として花開く事を願ったものである。

校章にこめられたこの願いと、そのもとで築き伝えられてきた伝統に気づかせ、誇りと尊敬の念をもって校章に接する態度を養いたいものである。